

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	一般財団法人 日本京劇振興協会
公演団体名	新潮劇院

内容
<p>本公演で共演する児童・生徒を事前に募っていただき、京劇の演技指導を行います。本公演では京劇の衣装・メイクをつけて舞台に登場し、京劇的一幕を演じます。出演児童・生徒だけの開催が難しい場合は、クラス全体・学年全体などのスタイルでワークショップを行い、競演児童・生徒には前述の演技指導、出演しない児童・生徒には京劇の歴史レクチャー、京劇の発声練習、立ち回りの指導などを行います。</p> <p>「京劇」の技術は本場中国でも専門の学校に入らないと習うことができないもので、子どもたちにはとても貴重な体験となります。こういった基礎の様式は毎日の繰り返しによって習得されるもので、1日のワークショップではその触りを知ることができるのですが、実際には中国の戯曲学校で、自身と同年代の子供たちが連日訓練を行っていますので、彼らが、俳優として舞台に立つまでに日々どのような訓練をしているのか、芸術を極めることの困難さを知ることができます。また、上記とは逆になりますが、比較的簡単に習得できる大技もありますので、これを学ぶことで子どもたちが達成感を得ることもできます。</p> <p>但し、コロナウイルス感染症対策のため、学校の判断によっては「共演をしない」「唱・セリフ指導はしない」などの対応をして、差分の時間はレクチャーや所作指導の内容を増やします。</p> <p>[京劇レクチャー] 「伝統芸能とは何か？」から始まり、中国伝統芸能「京劇」についての歴史・様式、そして今回上演する演目の概要について説明していきます。</p> <p>[共演者への指導] 事前に公演で出演していただける児童・生徒の参加希望者を募っていただき、プロの俳優が共演に向けての指導をします。役柄は天兵、小猿、仙童の三種類。</p> <p>[京劇所作や立ち回りの体験] 共演しない児童・生徒は「圓（ユアン：まる）」を基本とする京劇の優雅な所作や指使いについて体験します。会場スペースがあれば新聞紙を丸めた武器の代用品を準備してもらい、立ち回りの基礎も指導します。</p> <p>[劇中の唱・セリフ指導] 共演しない児童・生徒には劇中のキーポイントとなる唱・セリフを指導し、本編で実際に言ってもらうための練習をします。</p> <p>[リハーサルの観覧] 指導を受けた共演者たちがリハーサルを受ける様子を観覧します。</p> <p>[その他] 学校の希望がありましたら交流給食、俳優への質疑応答などに対応します。</p>

タイムスケジュール（標準）

開始 30 分前 会場入り・指導者着替え・会場準備 30 分
ワークショップ(京劇の説明 15 分・チームに分かれて演技指導 50 分・リハーサル 25 分)
指導者着替え・会場片付け 20 分
終了後 担当の先生と本公演の打合せ 60 分
※各学校様の都合により時間は調整

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者 1 名／補助 3 名
出演予定の俳優が演劇指導をします。

学校における事前指導

- 電話によるワークショップ概略の説明。
- 参考資料の送付
 - ・京劇 DVD（該当演目映像・京劇基礎訓練の参考動画）
 - ・台本（日本語訳つき）
- ワークショップ用の道具作り（※本番で出演しない児童がワークショップに参加する場合のみ）

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	一般財団法人 日本京劇振興協会
公演団体名	新潮劇院

演目

中国伝統芸能 京劇

「孫悟空 天界で大暴れ ～西遊記より～」

(古典演目／脚本・演出 張春祥)

公演時間 (レクチャー20分 本編60分 合計 80分 : 応相談)

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

俳優8名／スタッフ3名

主演には日本人ながら中国トップの劇団である中国国家京劇院に所属経験のある京劇俳優「石山雄太」を迎えての上演となります。

タイムスケジュール (標準)

8時半 会場入り・設営／11時～リハーサル／12時～生徒メイク・着付け

13時 本番(レクチャー15分・本編55分・カーテンコール10分)／14時20分 終演

16時半 撤収完了

※各学校様の都合により時間は調整

実施校への協力依頼人員

舞台に登場する生徒 6～24名程度。

代表教員のゲスト出演 1～2名。

※コロナウイルス感染症対策のため、学校の判断によっては「共演をしない」スタイルも対応

演目解説

日本の「歌舞伎」のように中国を代表する伝統芸能である「京劇」の中で日本人にも人気のある「西遊記」の演目を上演します。

【あらすじ】

『孫悟空』が三蔵法師と出会う前、暴れん坊の頃のお話です。『孫悟空』のいたずらにすっかり手を焼いた神々は、天界での役職を与え、おとなしくさせようと考えたのですが、『孫悟空』は神々の宴を荒らして大暴れ、ついには神々との戦いになるのです。

【みどころ】

派手なメイクと豪華な衣装の中国伝統芸能「京劇」は日本の伝統芸能とは全く趣の違った強い印象を持っています。そして京劇の中でも特殊な存在であり、多くの京劇俳優が演じたいと夢見るキャラクターが『孫悟空』です。彼がまだヤンチャな時代の自由闊達な様子や、サルとも人間ともつかない不可思議で豊かな表情、そして得意の棒術による立ち回りの激しさは古今にわたって観客の心をつかんで離しません。また、天界の神々は、それぞれ独特な隈取を施しているのも特徴的です。クライマックスの大立ち回りは必見。

【その他特徴】

公演前には京劇レクチャーがあり、京劇の鑑賞方法をわかりやすく解説します。芸術鑑賞は「静かに見る」というのが一般的な印象ですが、京劇は元々茶館で気軽に観劇していた芸能で、観客も一緒に歓声を上げて盛り上がるすることができます。

舞台両側には日本語字幕がつきますが、俳優のオーバーな表情・しぐさだけでも十分内容は伝わる上に、場面ごとに日本語のナレーションも入ります。冒頭には日本語のセリフを話す俳優も登場し、字幕を追うことに捕らわれず鑑賞できます。

主演の石山雄太は日本人でありながら子供の頃より京劇の孫悟空に憧れ、単身、本場中国に渡って中国人でも難関である最高峰の劇団「中国国家京劇院」に所属するまでに至った、まさに『夢を叶えた』人物です。そんな彼の行動力と、芸術へと取り組む姿勢は子供たちに感銘を与えます。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

事前のワークショップに参加した児童・生徒代表が、本物のメイク・衣装で本編に登場。ストーリーの進行上必要なキャラクターとしてプロの京劇俳優と共演します。チームごとに立ち回り、アクロバット、旗のマスゲーム、中国語セリフなどを繰り広げます。終演後には集合写真を撮影します。豪華な衣装と派手なメイクで変身しますので、人前に出るのが苦手な子でも安心して舞台に立つことができます。

観客側も事前のワークショップで練習した京劇の唱やセリフを劇中全員で唱和し、それをきっかけに物語が進行します。また、京劇は観客が舞台に声援を送る習慣があり、大技が決まったときに俳優を褒める「好（ハオ！）」の掛け声を上演前に練習することで、本編でも役者と一体になって演劇のライブ感を共有することができ、最後まで集中して京劇を鑑賞できます。

但し、コロナウイルス感染症対策のため、学校の判断によっては「共演をしない」「唱や掛け声の指導はしない」などの対応をします。

児童生徒とのふれあい

劇中には日本語を話す俳優が観客の子供たちの中に入って行ったり、全員に「孫悟空はどこへ行ったかな？」などの質問をしたりします。俳優とのコミュニケーションを楽しみつつ、子どもたちも劇の一部として参加している一体感、没入感を深めます。

希望があれば上演前のバックヤード（舞台裏）見学に対応します。豪華な刺繍のある京劇衣装を間近で確認したり小道具の意味についてレクチャーを受けたりできます。また、京劇メイクの様子を見学し、何名かの子供たちには簡単な京劇メイクを施すこともできます。

希望があれば、終演後に俳優への質疑応答、児童代表挨拶、クラスごとの集合写真の撮影なども対応します。

但し、新型コロナウイルス感染症対策のため、学校の判断によってはこれら対応は控えます。